



巻頭言

働き方改革の真髄 ～教師と子供のいい風景をつくる～

両沼小学校長会長 菅 家 篤
(会津坂下町立坂下南小学校)

「校長先生、宿題に目を通す仕事が減ったので子供たちとよく遊べるようになりました」これは、ある学級担任の言葉です。本校の先生方は、子供たちとよく遊びます。その光景を見る度、「幸せないい風景」だなと嬉しく思います。



【休み時間の教師と子供たちのいい風景】

創意と活力に満ちた学校経営のためには、教師が毎日子供たちの前でいきいきと教壇に立てるようにすることが不可欠です。そのために、教師の働き方の実情を、校長が積極的に情報発信し、家庭や地域と共有しつつ、教師を取り巻く環境整備を進めていくことが重要であると考えます。

取組の一例を紹介します。

〈教師の働き方の実情の情報発信〉

- ①保護者会において、教師の一日の勤務の実情をスライドにまとめ説明
- ②学校運営協議会（以下CS）において、教師の勤務の実態等について問題提起



【働き方改革をテーマに熟議したCS】

〈教師を取り巻く環境整備の取組〉

- ①保護者ワークショップを開催し、教師と家庭の役割をテーマに熟議
- ②CSにおいて学校における働き方改革を議題に協議（特に家庭学習のあり方）



【学校のあり方を熟議した保護者ワークショップ】

これらの取組を通して、家庭学習に対する親の関わり方が確認され、宿題に目を通す教師の仕事が軽減されました。それにより、先生方が休み時間に子供たちとよくふれ合うようになりました。宿題に目を通すことと、子供と一緒にふれ合うことのどちらがより教育的か。教師と触れ合う子供たちの笑顔を見れば、答えは一目瞭然です。教師としてやりたいことをやれるゆとりを生み出すことが、学校の働き方改革の真髄ではないでしょうか。



特別寄稿

唱歌「ふるさと」

三島町教育委員会教育長 山口 浩

先日、学生の時に大変お世話になった音楽の先生の古希の祝賀会があり、その祈念として、小学校の音楽の教科書にもある唱歌「ふるさと」の指揮をしてくださった。なぜいつものシャレた曲じゃないのか友人といぶかしんでいた。早速先生は、この曲を指導するときは最低2時間かけるが、今回は時間の都合で15分に省略してやりますとのこと。

歌詞の1番の解説からはじまり、「うさぎおいしかの山、小ぶなつりしかの川、夢は今もめぐりて、忘れがたきふるさと」は、過去。子どもの頃を思い出しているので、ここは楽譜の強弱記号の指示どおりmfで歌いましょうという指示。生徒に「うさぎ美味しい」という意味ではありませんよ、と冗談で済ませていた自分の指導が恥ずかしくなりました。

2番「いかにいます父母、つつがなしや友がき、雨に風につけても、思いいずるふるさと」は現在で、ふるさとの人々がどうしているか気にしている様子がうかがえるので、楽譜の指示はmfですが、ここは感情を十分に込めたpで歌いましょう。ここまでくるとさすが専門家。

3番「志しを果たして、いつの日にか帰らん、山は青きふるさと、水は清きふるさと」は、未来のことを語っており、自分の夢を果たしたあとに、ふるさとへ帰ってこようという意志が感じられますから、「志し」は少しマルカート（はっきり強調して）で歌いましょうと、これも楽譜とは異なる指示。

3番のさらにくわしい解説では、作詞者の高野辰之は、師範学校を卒業し小学校の教師になり、お寺に下宿をして小学校に通っていたが、やがてそのお寺のお嬢さんに惚れ込み結婚を申し込んだが、娘さんのお母親にこう言われたそう。「将来、人力車に乗って山門から入って来られるなら許してあげます」と。つまり将来出世することを条件に、結婚を許すということだ。

出世を条件に結婚を許された彼は、教師を辞め、東京帝大教授の先生を頼って苦学し、文部省の役人としてうだつのあがらない役所勤めをしていたが、やがて文部省唱歌の編纂委員となり「故郷」、「朧月夜」、「春の小川」、「紅葉」等を作詞、東京音楽学校（現東京芸大）教授となり、念願の故郷に華々しく錦を飾り、お寺の娘さんと結婚したとのこと。

「志し」を先生の解釈でマルカートで歌うという指示の背景にはこれだけの研究があったとは、まさにプロの指揮者の領域。世界的指揮者の故小澤征爾氏も、毎日が期末テストのようだと語っていた。

わずか15分の指導でしたが、もう結果は歴然。歌いたくてしょうがないのですから。私たち教育の専門家の立場から考えると、子供の主体的な学びに火を灯し、それを支援する伴奏者となるためには、生涯学び続けなければならないということが実感できた。この曲を教え子に指導してくださった先生の気持ちが少しわかったような気がした。

先輩校長先生より

校長職を退いて

柳津町立柳津小学校 石見 勝則

3月末で校長を退き、現在は低い給料にも耐えながら、初任研メンターをしています。

メンターをしてみますと、自分の存在が他者に悪影響を与えていないかが心配の種です。校長の時には自分で責任をとる覚悟で思いうことをしていましたが、今はそういうわけにはいきません。むしろ今の方が自分の行為に気をつけています。ある先輩が「晩節を汚すなよ。」と声をかけられました。退職後であっても、人として胸を張っていけるような生き方をしろよということだと思います。

7年もの間、両沼小学校長会では大変お世話になりました。小学校長会で多くの校長先生方に学ばせていただきました。「校長は孤独」と言われますが、校長会のつながりが私にそう感じさせなかったと思います。本当にありがとうございました。

校長として、新型コロナ対応、働き方改革という時代の流れに合わせて学校を変えることを優先的に進めてきました。それらはすべて「持続可能な学校教育」のためでした。これからさらに教員不足は進むでしょう。そして不登校も。学校を変えることを今後もしていかなければ、学校教育の未来はないだろうと今も思っています。特に両沼地区は少子化が喫緊の課題です。地域の発展に寄与する子どもたちを育てていくことを念頭に今後も学校づくりをお願いします。（両沼地区住民の一人としての意見でもあります。）今後ともよろしくお願いします。

転出された校長先生から

会津盆地の真ん中で

福島市立蓬莱小学校 荒川 信一

令和5年度より2年間、湯川村立勝常小学校に勤務いたしました。

令和5年度は、創立150周年でした。子供たちには先人たちとのつながりを感じ取れる取組にしたいと思いました。空撮に合わせ6年生が描いた校庭の地上絵は見事な出来栄でした。

秋の学習発表会は、150周年記念と銘打ち、集大成のイベントとしました。



体育館への通路の左の壁は歴史を振り返る掲示、右側は未来に思いを馳せた児童の作品を飾り付けました。学年の発表もそれぞれに思いが感じられ、最後にみんなで歌った校歌はいい思い出です。子供たちの郷土愛を高めることができました。

令和6年度の冬は、豪雪の対応に迫られました。児童の安全を確保するための重要な判断をしなければならない場面が続きました、村内の校長先生方と相談を重ね、村教育委員会の指導を頂きながら何とか乗り切ることができました。日頃から危機管理の大切さを再認識しました。

両沼支会の皆様には本当にお世話になりました。ありがとうございました。一面に広がる水田と仰ぎ見る磐梯山、霊峰飯豊連峰。通勤時に見ていた会津盆地の真ん中の風景を懐かしく思い出すこの頃です。

転出された校長先生方から

両沼地区での経験を生かして

会津教育事務所 鈴木 祥晃

令和4年4月より、新鶴小学校長として、2年間大変お世話になりました。生まれ育った会津美里町での新任校長、そして4年ぶりの学校現場ということで、期待と不安が入り混じるスタートでした。

そのような中、両沼小学校長会の校長先生方には、学校経営や物事の考え方など、多岐にわたるご指導・ご助言をいただきました。何より、私の悩みに親身に耳を傾けていただいたことで、自信をもって校長職を務めることができました。また、2年間務めさせていただいた小教研両沼地区会事務局では、校長先生方の多大なご協力のおかげで、会員の先生方にとって大変有意義な小教研になったことと存じます。改めて、感謝申し上げます。

さらに、各校長先生方から様々なお話を伺う中で、校長職と両沼地区の魅力を再認識することができ、自校の学校経営・運営ビジョンに「ChallengeとChange」を掲げ、教職員と共有し、「チームとしての学校づくり」と「地域とともにある学校づくり」を、微力ながら精一杯推進できたものと感じております。

これからは、両沼地区での経験を生かし、恩返しの気持ちを胸に、会津域内の学校のために尽力して参りたいと存じます。

校長先生の元気は教職員の元気につながり、教職員の元気は子どもたちの元気へとつながります。くれぐれもご自愛の上、校長先生方の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

最後となりましたが、本当に大変お世話になりました。両沼地区小学校長会のさらなる発展を心よりご祈念いたします。

今後とも、どうぞ宜しくお願いいたします。

会津の良さは人の良さ

須賀川市立白江小学校長 矢部 吉彦

令和5、6年の2年間、金山町立金山小学校長として当地区にお世話になりました。教頭の初任以来の会津勤務でしたが、初めての校長職・小学校勤務・奥会津地区での勤務と、初めてづくしで不安9割、期待1割で着任した私を温かく迎え入れてくださいました。

金山町での2年間は校内外で多くの得がたい経験をさせていただきました。中でも小学校統合に向けて、準備に携われたことは大きな経験となりました。学校の歴史に区切りがつくことの重大さや責任の重さを踏まえながら、実務の処理だけでなく、感情というものの受け止めにも心を砕いてきました。特に、横田小・横田地区に関わりのある人々の想いには、想像力を働かせながら準備を進めてきたつもりです。一方、学校教育の変革のチャンスでもあり、両校の積み重ねを加味しながら協議をし、諸々のアップデートを図りました。今頃は、統合校の校長先生や教職員、保護者・地域の方々みんなで学校を育て、町民から託された「統合してよかったとみんなが思える学校に」してくれているかと思います。

振り返ると、人に恵まれた2年間でした。誠実に職務に向き合う職員、「全力・協力・チャレンジ」をしながら何事にも頑張る子どもたち、それを支える保護者や地域・行政の方々、そして、折に触れ励ましの言葉やよきアドバイスをくださいました両沼地区の校長先生方には感謝しかありません。改めてありがとうございました。子供の頃見たコマーシャルに、「会津の良さは酒の良さ」というのがありました。体質的に酒が飲めない私ですが、2年間でこの地域で過ごし、「会津の良さは人の良さ」であると感じる毎日でした。

この地で学んだことや思い出、校長先生方とのご縁を大切に、新任地でも頑張って参ります。今後どうぞよろしくお願い致します。

新任校長所感

「夢」につながる学校へ

会津美里町立新鶴小学校長 大関 美華

年度末、異動に伴い職場や家の荷物を整理しました。初心に帰るために小・中・高の卒業アルバムを本棚に置きました。開いてみると小学校時代の将来の夢「小学校の先生」、中学校時代の将来の夢「学校の先生」、高校時代の将来の夢「教師」と、未来の夢に思いを馳せたブレない自分がいました。私は学校が好きでした。先生も、校舎も教室も学年の友達も大好きでした。授業中の先生の雑談、体育の授業に見せてくれた鉄棒での蹴上ガリの技（私の心に灯をつけた！）。何をするにも学級ではなく学年として学習に取り組み一体感を感じていた心地よさ、古いながらも花が飾られ整理され過ぎやすかった校舎・・。学校を休みたいと思ったことは一度もありませんでした。大人になり夢であった「先生」の職業に就き、そして今微力ながらも「校長」として教育に向き合っています。

新任校長をサポートしてくれる教頭先生、放課後は雑談で騒がしく情報共有ができる力のある職員室。毎日のように顔合わせ、会議、見守りに来ていただいている地域の方。こんなにたくさんの力をお借りして学校づくりができる喜びと感謝で胸がいっぱいです。

かつての私のように学校が好きな子はどれくらいいるだろう。「子どもが通いたい学校、保護者が通わせたい学校、地域が応援したい学校、教職員が勤めたい学校」に少しでも近づけるよう、校長の職責の重さを自覚し、楽しみながら学び続けていきたいと思っています。

転入校長所感

コンプリート目指して

湯川村立勝常小学校 高原 昇

特例任用校長として、4年振り2度目の両沼地区勤務となります。しかも、同じ湯川村。村には、中学校が1校、小学校が2校ありますが、今回の赴任で、その2校をコンプリートすることができました。大きさとしても、約4km四方と県内で最も小さい自治体ですので、今回の赴任で残り半分の地域理解に努め、湯川村もコンプリートしたいと考えております。

まず、前回の勤務では、あまり訪れることがなかった、徳一菩薩が創建した東北を代表する古刹で、会津中央薬師堂とも称される勝常寺の魅力にたつぷりと触れてみたいと思っています。早速、4月28日（月）に、本校の4年生以上の児童が勝常寺念佛踊りで参加する、勝常寺祭礼に参加しました。希望者を募って、祭礼の1週間前から地区の公民館で、夜7時から横笛と太鼓に分かれて、約1時間指導を受けます。



後日、湯川村勝常寺念佛踊り保存会の方に踊りの意味を伺って、奥の深さに驚かされました。コンプリートするには、長い時間がかかりそうですが、頑張ります。

転入校長所感

坂下東小学校に赴任して

会津坂下町立坂下東小学校 渡部 健

この度、会津坂下町立坂下東小学校でお世話になることとなりました。どうぞよろしくお願いいたします。前任校は南会津郡下郷町立江川小学校で、全校児童が34名、4学級（1、2年が単式、3・4年複式、5・6年複式、巡回型の通級指導教室設置）という小さな学校でした。そのため、坂下東小学校に着任して3ヶ月目となりましたが、未だに全校児童の顔写真の入ったクリアファイルを持ち歩いて、教室を訪問する際には、このファイルにとらめっこの状態です。

坂下東小学校は、全校児童が254名（6月10日現在）名です。4月当初は、「とても多いな。」と戸惑いもありましたが、子供達からすると特別支援学級を除いて全ての学年で1学級が18～22名、全学年2学級というのは、まさに適正規模ではないかと感じるようになってきています。本校も今年度から、毎年のクラス替えと担任の入替えをするようにしたのですが、クラス替えができる人数がいるということは大切なことなのではないでしょうか。

本校の子供達は、何事にも関心が高く、いろいろなことに挑戦してみたいと思っている子が多いと感じます。運動会や鼓笛パレード、相撲大会や水泳・陸上記録会をとても楽しみにしているのです。これからも、学校だよりやブログ等で子供達の活動の様子を家庭や地域の方々に発信していきたいと思えます。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



編集後記

今年度は、発行回数をこれまでの年3回から年2回と減らし、執筆される校長先生方の負担を軽減いたしました。地区内の校長先生方は1年間に1度の原稿執筆となりますが、それでもお忙しい中での原稿執筆は大変であったと推察いたします。地区外の校長先生方、教育長様にとっても、直接かかわりのないことでもあり、多忙な本務を抱える中での執筆は、面倒なことだったかもしれません。担当として原稿依頼をする際も、大変心苦しい思いがしました。

しかし、だからこそ、貴重な両沼校長会広報の発行を意味のあるものにしないでほしいと思いました。そして、どうせやるなら、発行する意義のある広報にしたいと思っています。

改めて先生方からの寄稿文を拝読させていただきますと、9人の各先生方の、一つ一つの言葉、文章から、人となり、そして各先生方が大切にしていることが伝わってきます。9人の先生方それぞれの視点や考えが新鮮で、大変参考となるものです。

会員の皆様にとっても、きっと本広報が今後の学校経営に資するものと確信しています。また、そうしていただければと思います。

最後に、次号148号執筆担当される先生方へ。校長先生方の熱い思い、多様な見方、考え方を広めるきっかけの機会です。ご協力をお願いいたします。校長先生方全員の力で、校長会会報発行を意義のあるものしていきましょう。よろしくお願いいたします。

令和7年6月

両沼小学校長会広報部第147号担当

柳津町立西山小学校 齋藤 知宣